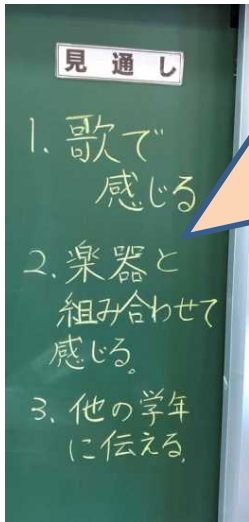
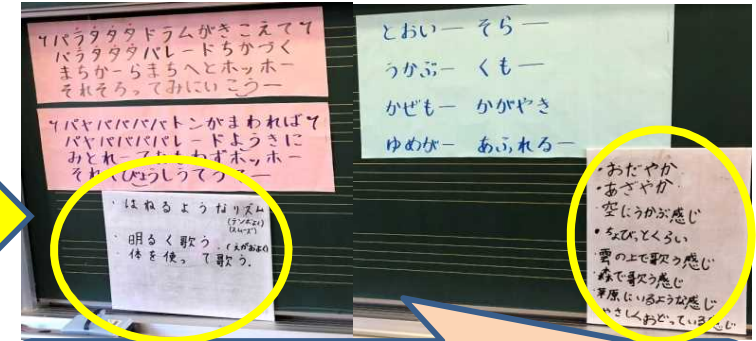
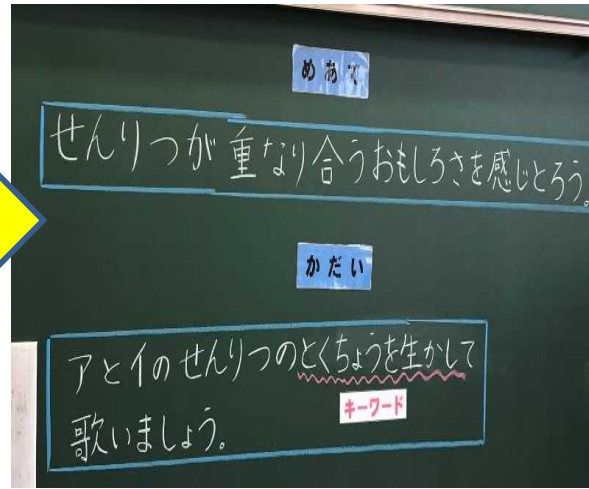


単元を見通したためあてに向かい、主体的に表現を工夫する音楽授業

平成30年11月7日(水)白丹小学校:後藤教諭



授業のはじめに単元の見通しを示し、本時は「歌で感じる」ために、「せんりつが重なり合う面白さを感じ取る」ことがめあてであることを確認します。



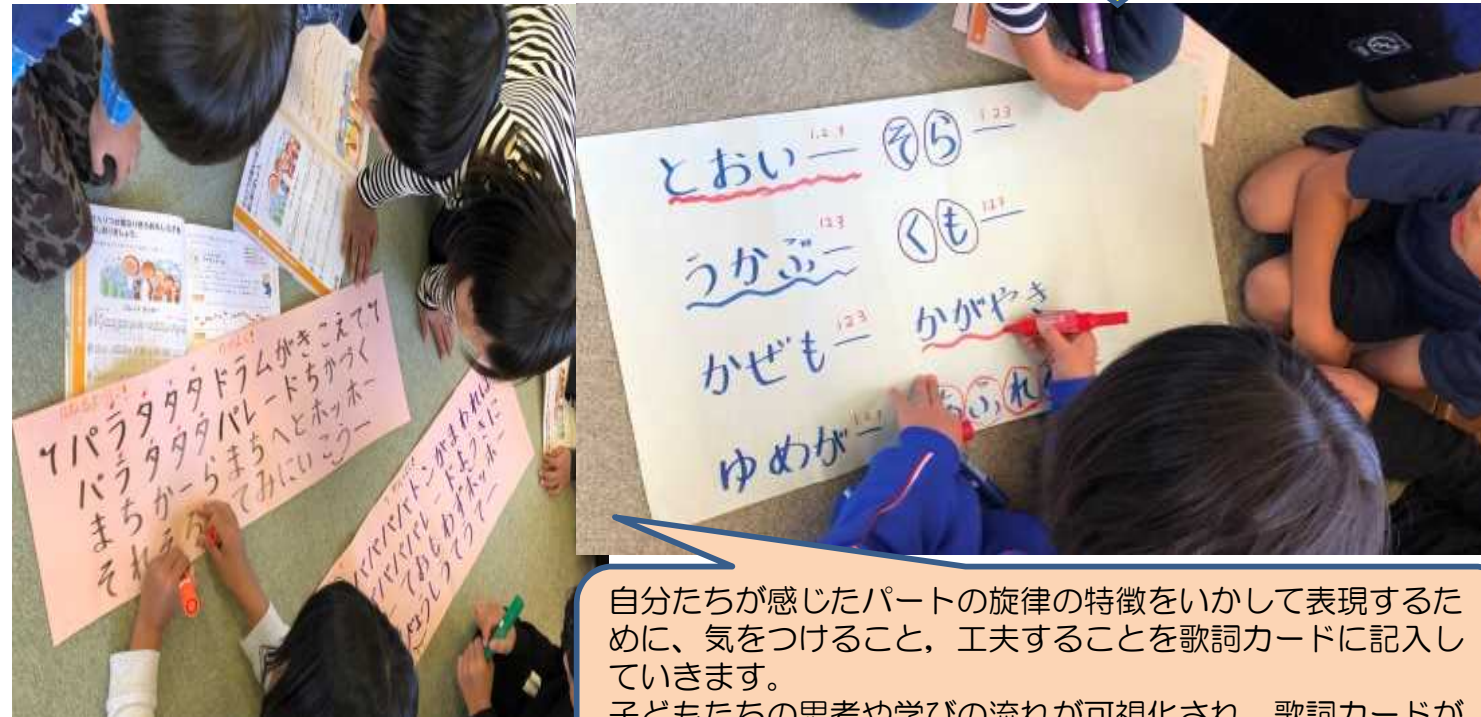
本時の課題に沿って、子どもたちが感じたパートの旋律の特徴を、パートごとに出しあいます。

授業は、子どもたちが感じた旋律の特徴を、子どもたち自身が工夫した表現で元気よく歌うところで終わりました。

また、次の時間は「楽器と組み合わせて感じ、表現」することを確認して、子どもたちの意欲につなげていました。

国語科における、いわゆる「単元を貫く言語活動」のように、音楽の授業でも単元の見通しをしっかりと持たせ、子どもたちが1時間1時間の課題をしっかりと意識することで、主体的・対話的な学びが実現していました。

単元の終わりには、より深い表現力となり、他学年への発表が実現することでしょ。



自分たちが感じたパートの旋律の特徴をいかして表現するために、気をつけること、工夫することを歌詞カードに記入していきます。子どもたちの思考や学びの流れが可視化され、歌詞カードが「思考ツール」になっていきます。